１２０円の理由

森山　琴恵

人物

武田弘輝（２６）保険会社の営業社員。

吉野美帆（２６）営業部の社員。

清水千智（２７）営業部の社員。

尾崎誠司（２６）営業部の社員。

南真央（２６）外為部の社員。

栗山萌香（２４）企画部の社員。

杉谷琴美（４５）事務社員。

寺内光太郎（４８）営業部の部長。

早川夏男（４１）営業部の課長。

滝田正道（３０）営業部門の社員。

定食屋の店員

○定食屋

昼休み中のサラリーマンでにぎわう店内。

武田弘輝（２６）、吉野美帆（２６）、清水千智（２７）、尾崎誠司（２６）がテーブルを囲んでいる。全員食べ終わっている。

尾崎「そろそろ行くか。お会計お願いしまーす」

店員「はーい、伝票こちら」

店員、伝票をテーブルに置く。

４人、財布を取り出す。

美帆「私、まとめて払うよ」

千智「ありがと。はい」

尾崎「よろしく！」

千智と尾崎がちょうどの金額を美帆に渡す。

武田、財布をごそごそしている。

武田「やべ、俺足りねぇわ。１２０円あとで返すから、とりあえずこれで！」

武田、美帆に小銭を渡し、パンッと手の平を合わせる。

武田「悪い！」

千智と尾崎、笑っている。

美帆、呆れて

美帆「もー」

○ビル・エレベーターホール

エレベーターを待つ４人。

先に待っていた栗山萌香（２４）が振り返る。

萌香「あ、武田さん！」

武田「おっ、クリリンじゃん。チョコ食う？」

武田、手に持っていたチョコレートを差し出す。

萌香「えっ、いいんですか？じゃあいただきまーす！」

萌香、ニコニコしてチョコレートを取る。

萌香「そうだ、この間の件、後で相談に行ってもいいですか？」

武田「『踊る大作戦～堅物Ｙ社長を打倒せよ！』のことだろ？いつでもカモン！」

尾崎と千智、吹き出す。

エレベーターが来る。

○エレベーター内

一同、乗り込みながら話す。

千智「何それ」

武田「いいだろ？くそ真面目な社長でさ、あと一歩で落とせそうなんだよ」

美帆「ちょっと、ここオフィスじゃないんだから」

美帆が小声でたしなめ、武田はお口にチャックのジェスチャーをする。

○新緑生命・営業部オフィス

萌香、企画部へ戻って行く。
萌香「じゃあ、後で行きます！」
武田「ういーす」
萌香に片手を上げつつ、事務方のデスクに目をやる武田。
武田「あれ、杉谷さん髪切りました？なんか雰囲気違う」
杉谷琴美（４５）が武田を見て嬉しそうにする。
琴美「さすが武田くん、よく気付くわねぇ。当たりよ」
武田「でしょ！もう杉谷さんのこといつも見てますから俺～」
武田を置き去りにし、美帆、千智、尾崎はそのまま歩く。
尾崎「武田ってやっぱチャラいよな」
千智「うん、営業うまいのもわかるわ」
美帆、苦笑い。

○同（夜）

大勢の社員が働いている。時計が午後５時をさしている。

美帆、パソコンに向かっている。

武田、美帆の背後から鼻歌を歌いつつ近付いて来る。

武田「おつ、吉野。まだ帰んねぇの？」

美帆、手を止めて武田と時計を交互に見る。

美帆「まだって、まだ５時だよ？むしろもう帰るの？」

武田「気分が乗らない日は、明日の自分に期待して潔く帰る派なのよ、俺は。生産性重視ってやつ？」

美帆「あっそ。仕事少なそうでうらやましー」

美帆、パソコンに目を戻す。

武田「おいっ、暇みたいな言い方すんな」

美帆「暇じゃなきゃこの時間に帰れないでしょ。女の人にちょっかい出してば

っかりだし」

武田「それはなーお前、仕事を円滑に進めるための嘆かわしい努力でしょうが。日頃いい関係を築いておくことでいざって時に助けてもら……」

美帆、武田をキッと見上げる。

美帆「はいはい、私は同じ営業だから助けてあげられないよ。それに、忙しいんだけど」

武田、肩をすくめ、ポケットからチョコレートを取り出す。

武田「ストレス溜まってんな、チョコでも食え。じゃ、お先」

武田、チョコレートを美帆の机に置いて去る。

チョコレートには触れず、仕事を続ける美帆。

○ビル・外観（朝）

コートを着たサラリーマンが行き

交っている。

○新緑生命・営業部オフィス（朝）

朝礼。全員起立し、前で話す寺内光太郎（４８）を見ている。

寺内「では続いて、ＭＶＰの発表だ。先月のＭＶＰは、武田君！」

武田「あざっす！」

武田、満面の笑みで拍手の中を闊歩する。

寺内「武田君は持ち前のトークスキルとコミュニケーションスキルで、気難しいオーナーの懐に入り込み、見事大口案件を成約してくれた！」

滝田正道（３０）が武田を指す。

滝田「こいつの語り口がウザすぎてオーナーも観念したんじゃないっすか？」

笑いが起こる。

武田「ちっがいますよ、俺はちゃんと良い関係を築いて……」

寺内「それもまた一つのスキルかもしれないな？」

武田「ちょ、部長まで～！」

さらに笑いが起こる。

寺内「とにかく。よってＭＶＰに選出した。おめでとう！」

武田「あざっす！」

武田、賞状と金一封を受け取る。

一同、拍手する。

美帆、拍手しながら、驚いたような悔しいような複雑な表情。

○同

美帆、真剣な表情でパソコンに向かっている。

武田、千智、尾崎が美帆の席にやってくる。

武田「吉野、昼飯行こうぜ」

美帆、振り向く。慌てて時計を見て、手元の資料の束に目をやる。

美帆「うーん、今日はちょっと行けなさそう……」

千智が美帆の肩に手を置き、顔を覗き込む。

千智「最近あんまりお昼食べてなくない？」

美帆、笑顔を作る。

美帆「机でパンとか食べてるから大丈夫。みんなで行ってきて！」

千智「そう？ちゃんと栄養とってね」

千智と尾崎が心配そうにその場を離れる。

武田、ちらりと美帆の方を振り返る。

美帆、真剣な表情でパソコンに向かっている。

○ビル・エレベーターホール（夜）

武田、壁にもたれてスマートフォンをいじっている。

エレベーターが降りてきて、他の会社の人たちと一緒に美帆が出てくる。

武田、顔を上げてスマートフォンをしまう。

武田「おつ、吉野。今日も遅ぇじゃん」

美帆「あれ、お疲れ様。武田も今日はこの時間？」

武田「まぁ俺はやむなし残業かな、俺に張られてる数字もでかいし？ＭＶＰ穫ってますます期待されちゃってるっていうか？」

美帆、眉間に若干の皺を寄せる。

美帆「……はぁ、帰ろ」

美帆、歩き出す。

武田「おい、まともに昼食ってねぇんだろ？軽く食いに行こうぜ。ほら……あの昼飯ん時の１２０円、返したいし」

美帆、少し驚いたように立ち止まる。

美帆「あぁー、そういえば。別にいいよ、１２０円くらいどうってことないし。また明日」

美帆、歩き去る。

エレベーターホールに残され、美帆を見送る武田。

○ビル・外観（朝）

コートを着たサラリーマンが行き交っている。

○新緑生命・営業部オフィス（朝）

挨拶しながら席に向かう武田。

武田「はよざいまーす、はよざいまーす」

武田、席について、美帆の席を見る。

美帆、電話を肩で支えて会話しながら、パソコンを操作している。

武田、その後ろ姿を数秒見つめた

後、パソコンの電源を入れる。

○同・外為部オフィス（朝）

南真央（２６）、書類の整理をしている。

武田、鼻歌を歌いながら真央の所へ来る。

武田「よっ」

真央「武っち。どーしたの？」

武田「南っちにひとーつお願い。お客さんに渡す書類、これで合ってるか見てくんない？」

武田、クリアファイルに入った書類を差し出す。

真央、受け取って面倒くさそうな顔をする。

真央「えー、いつまで？」

武田「うーん、なるはやかな」

真央「なぬー。もー、今見てあげるよ、しょーがないなー」

真央、書類をチェックし始める。
武田、手の平をパンッと合わせる。
武田「悪い！今度なんかおごる！」
真央「じゃあ、スタバのアップルシナモンフラペチーノ、グランデね」
武田「オーケイ！ほんと南っちのおかげで毎回助かってます！」
武田、変な顔で敬礼する。
真央、書類をチェックしながら
真央「そーいえば、よっしー最近あんま見ないけど、元気？前は朝ロッカーとかで会ってたんだけど」
武田「あー、あいつ最近やたら気合い入れちゃっててさ。朝は早ぇし昼は食ってないし、夜も遅ぇんだよ」
真央「ふーん、よく見てんねぇ武っち」
武田「え？いや、俺の席からだとあいつの席よく見えるし、昼飯も誘ってんのに断って……」

真央「はいはい。個人情報の同意書が抜けてる、それ以外はオッケー」

真央、書類をトントンとまとめて、武田に返す。

武田「お、おう早っ！サンキュー！さすがデキる女！」

武田、指２本の敬礼を飛ばしながら帰って行く。

真央「でっしょー？スタバ約束ね！」

真央、念押しのように武田を指差す。

○同・営業部オフィス（夜）

美帆、パソコンに向かう手を止めて伸びをし、立ち上がる。

○同・休憩スペース（夜）

立ったままテーブルに手を置き、コーヒーを飲む美帆。

千智が入ってくる。

千智「あれ！まだ残ってたんだ」
美帆「お疲れ様。ちょっと仕上げたい資料があって」
千智「最近頑張りすぎてなーい？あっ、もちろん前からよっしーが頑張り屋さんなのは知ってるけどね？」
千智、コーヒーを買う。
千智「武田なんか今日もやる気出ないとか言って５時に帰ってたよ。よっしーもたまにはそういう日あってもいいんじゃない？」
千智、コーヒーを持ってテーブルに歩み寄り、肘をつく
美帆「うん……。でも、武田と同じことしてたら勝てないから」
千智「……勝つ？」
美帆「武田は今の私の目標っていうか。ごめん、お先に戻るね！」
美帆、コーヒーを飲み干して、紙コップを捨てつつ出て行く。

美帆の後ろ姿を見つめる千智。

○同・営業部オフィス（朝）

朝礼。全員起立し、前で話す寺内を見ている。

寺内「えー、先月のＭＶＰは、吉野さん！」

美帆「……やった」

美帆、呟いて前へ出る。

社員たち、拍手。

武田、拍手しながら口を少し尖らせて美帆を見つめる。

○同

武田、メールを打っている。

画面には、「ＭＶＰおめ！みんなで祝勝飲みしようぜ。あと１２０円も返す！」と書いてある。

武田、メールを送信する。財布から１２０円出して見つめている

と、美帆から返信が来る。
メール画面には、「ありがとう！
武田にはお礼もしたいし、賛成」
と書いてある。
武田「お礼……？」
武田、怪訝そうな顔をする。

○居酒屋（夜）
武田、美帆、千智、尾崎、真央が
掘りごたつを囲んでいる。
武田「そんじゃ、吉野のＭＶＰに乾
杯！」
美帆以外「おめでとう！」
美帆「ありがとう！」
グラスがかち合わされる。
真央「よっしー聞いたよー？お昼も食べ
ずに頑張ってたって。武っちから」
真央が武田を指差す。
美帆、笑顔で頷いて、飲んでいた
レモンサワーを置く。

美帆「今回私が頑張ったのって、先月のMVPを武田がとったことに結構刺激受けたからなんだよね。暇そうに見えて、意外とやることやってるんだなぁって」

武田以外、笑う。

武田、慌てて反論する。

武田「いや暇じゃねぇから！常に超多忙だわ！」

尾崎「言われてみれば、武田ってしょっちゅう他部署の人とかにちょっかい出しに行ってるよな」

真央「あたしのとこにもよく無駄絡みしに来るもんねー？いつも鼻歌とか歌ってるしー」

美帆「確かに！」

千智「あれ聞こえると腹立つのよ」

武田「ちょ、みんなそっち側！？」

不満顔の武田に、美帆が笑いかける。

美帆「まぁ、そういうことで一応武田のおかげでもあるから、ありがとう！」

武田「お、おう……」

武田、同期の会話に笑いつつ、美帆をちらちら見る。畳についていた手に握っていた１２０円を数秒見つめた後、ズボンのポケットに押し込む。

○ビル・外観（夜）

窓に明かりが点いている。

早川の声「うーん、吉野さんさぁ」

○新緑生命・営業部オフィス（夜）

早川夏男（４１）が資料を見て苦々しい顔をしている。

美帆、早川の机の横に立っている。

早川「上客である田中さん相手に、こんな提案しかできないの？これはあまり

にもお粗末だろ」

美帆「申し訳ありません。ですが、田中様は今お忙しいそうで、あまりこの案件に乗り気でないようでして……」

早川「だから、そこを乗り気にさせるのがあなたの役目でしょ。お客さん優先の考え方もいいけど、手抜いてたらあっという間に他社に取られちゃうよ」

美帆「……はい。再度考え直していただくように交渉します」

早川、資料を美帆に突き返す。

美帆、受け取って席に戻る。

早川「せっかくＭＶＰも穫ったのに、推薦した俺のことも考えてくれよ」

わざと聞こえるように呟く上司。

美帆、目を閉じて深呼吸する。

武田、パソコンに向かいながらも美帆たちの方を気にしている。美帆が机の上を片付け始めたのを見て、パソコンの電源を切る。

○ビル・エレベーターホール（夜）

何人かの人に混じり、美帆が俯きがちにエレベーターから降りて来る。

武田の声「よーしの」

美帆、はっとして顔を上げる。

武田が立っている。

美帆「……武田」

武田「俺、１円でも他人に借金してんのはイヤなタイプだから、今度こそ１２０円返すから、メシ行こうぜ」

武田、返事も聞かず歩き出す。

美帆「え、まだ言ってるの？いいって言ったでしょ、ねぇ、ちょっと！」

美帆、慌てて武田を追いかける。

○居酒屋（夜）

にぎわう店内。

武田と美帆がカウンターに座って

いる。
武田「おつ」
美帆「お疲れ様」
二人、グラスを合わせる。
武田「さっきの聞こえてさ」
武田、ビールを一口飲んで、切り出す。
武田「早川課長のプレッシャーに負けまいと、また根詰めるんじゃねぇかと思って。お前、頑張りすぎるとこあるし」
美帆、武田を数秒見つめる。
美帆「……そうだね。心配、してくれたの？」
武田、そっぽを向く。
武田「……あんま無理すんなってこと」
笑みをこぼす美帆。
美帆「……うん、ありがとう。見返したくてまた力入れすぎちゃうところだった。もうちょっと気楽にいこっかな」

美帆、レモンサワーを一口飲む。
美帆「武田みたいに力抜きすぎないように気をつけなきゃ！」
武田、すかさず向き直る。
武田「おいっ、俺が全然力入れてないみたいに言うな」
美帆「あはは」
美帆を睨みつつ、明るい表情の武田。
飲みながら談笑する二人。

○新緑生命・廊下（朝）
掲示板の前に人だかりができている。
美帆が歩いて行くと、千智が駆け寄って来る。
美帆「おはよう」
千智「おはよ。ねぇ、武田異動だって」
美帆「えっ」
美帆、慌てて掲示板に駆け寄る。

「人事異動のお知らせ」の紙に、何人かの名前が連なっている。下方の行に「武田弘輝　大阪支社」と書かれている。

美帆「大阪……」

千智「そう、ちょっと寂しいけど、栄転だよね。さすが武田」

美帆「うん……」

美帆、張り紙を見つめる。

オフィスから拍手と歓声が聞こえて、振り向くと、笑顔の武田が同僚たちに囲まれ、祝福されている。

武田の姿を見つめる美帆。

○イタリアンバル（夜）

武田を真ん中に、美帆、千智、尾崎、真央が座っている。

尾崎「武田、ご栄転おめでとう！乾杯！」

全員「かんぱーい！」
グラスがかち合わされる。
真央「おめでとー武っち！」
千智「おめでと！」
美帆「おめでとう」
武田「サンキュー！お先に！」
武田、ビールをごくごく飲む。
真央「でも大阪なんて寂しいじゃん？ねぇよっしー？」
美帆「え？う、うん」
美帆、多少うろたえるも、すぐに平静を取り戻す。
美帆「でも、暇で有名な武田なら、すぐ東京に遊びに来るんじゃない？」
武田「だから暇じゃねぇって！この期に及んでまだ俺を暇人扱いするか、お前は」
真央「それもそっか！」
武田「いや納得すんなって」
全員、笑う。

千智「はー、このやりとりももう見られなくなっちゃうのか」
尾崎「そう考えると寂しいな」
全員、束の間沈黙する。
武田、頬杖をつく。
武田「ま、みんな俺が恋しくなったらいつでも大阪来ちゃえよ。暇じゃねぇけど、時間作って構ってやるからさ」
真央、料理を取り分けながら
真央「うざー。絶対行かなーい」
武田「冗談！俺が一番寂しいから！遊びに来てくださいお願いします！」
武田、手の平をパンッと合わせる。
真央「じゃあ飛行機とホテル、武っちの全おごりね？」
武田「なんでだよ」
全員、笑う。

○駅・改札の中（夜）

それぞれの方面へ別れる５人。

尾崎「じゃ、お疲れ！」

千智「じゃねー」

武田「おつ！送別会ありがとう！」

武田と美帆、ホームへ向かうエスカレーターに乗る。

武田「あー、酔ったわ」

美帆「結構飲んでたもんね」

二人、ホームに着く。

○駅・ホーム（夜）

武田と美帆、並んで歩く。

美帆「いつの飛行機で行くんだっけ？」

武田「３月１６日の便。マジ寂しいわ」

美帆、歩みを止める。

美帆「……見送り、行ってもいい？」

武田、振り返る。

美帆「……１２０円、返してもらうの忘れてたから」

美帆、様子を伺うように武田を見

る。

武田、少し驚いて、満面の笑み。

武田「もち！来て！」

○公園

桜の花びらが舞っている。

○羽田空港・外

離着陸する飛行機。

○同・ロビー

国内の様々な行き先が記載された電光掲示板。「伊丹　１３：４０」の文字。

武田、手の平をパンッと合わせる。

武田「わっりい！財布、スーツケースに入れて預けちゃった」

美帆「えぇー？」

美帆、呆れて笑う。

武田「またすぐ東京来るから、今度でいい？」

美帆「もー。いいけど」

武田、数秒沈黙し、息をつく。

武田「……そろそろ行くわ。じゃ、また！」

美帆「うん、また」

武田、手を挙げながら保安検査場に入って行く。

美帆、見送ってはにかむ。

美帆「下手すぎ、」

○同・保安検査場内

カバンから財布を出し、自動販売機で水を買う武田。

美帆の声「嘘」

○公園

T「２ヶ月後」

桜の木が葉で緑に染まっている。

○羽田空港・乗客が出てくる所

待っていた美帆、手を振る。

武田、スーツケースを引きながら

現れ、美帆を見つけて歩み寄る。

武田「よっ」

美帆「久しぶり」

○レストラン・テラス席

日当たりが良い。

武田と美帆が向かい合って座り、

食後のコーヒーを飲んでいる。

武田「そうだ、これ」

武田がお菓子の袋を取り出し、テ

ーブルに置く。

武田「大阪土産」

美帆「わぁ、ありがとう」

美帆、受け取って中を覗く。

武田、ポケットをまさぐる。

武田「あと、……これも」

武田、拳を握った状態で差し出し、上に向けて開く。
１００円玉が１枚、１０円玉が２枚。
美帆「えっ」
美帆、動きを止める。
沈黙が流れる。
武田、照れくさそうに笑い、口を開く。
武田「もう１２０円っていう理由がなくても、会ってくれっかな……って」
美帆、目を丸くして武田を見つめる。安堵したように身体の力を抜く。
美帆「……うん」
美帆、震える両手で１２０円を受け取る。
武田、居住まいを正す。
武田「俺と付き合って」
美帆、にっこりする。

美帆「うん」

美帆、手の中の１２０円をぎゅっと握りしめる。

了